
CONVERT(AVERAGE or FIRST or MID or LAST or SUM, INTERPOL)
 変数名 or 新変数名 = 旧変数名 ;

機能 :

CONVERT は、系列変数の期種を変換します。オプションは変換する際の時間集計の方法を指定するもので、データを最初の値、中間値、最後の値を用いて平均したり、総和をとることができます。補間はより高い期種に変換する場合にオプションとして用いることができます。

使用法:

FREQ ステートメントで変換したい期種を設定した後、CONVERT を用います。変換前の期種は変換される系列のそれです。このとき SMPL 情報は使用されません。これは同じ系列を変換する際の混乱を避けるためのものです。

最初の形のコマンドは、変数を変換して同じ変数名として再登録するものです。2 番目の形は、等号の右辺の旧変数を変換して、新しい別な変数名として登録するものです。変換する系列のタイプによって、系列を集計したり分解したりするいろいろな方法を指定することができます。特に指定せずに低い期種に変換したければ、CONVERT は期間内の全ての観測値を平均し、その区間の値とします。高い期種へ変換する場合の既定の方法は、INTERPOL あるいは SUM オプションが用いられていない限り新しい区間内に全ての観測値を複製します。

オプション:

AVERAGE は、期間内のデータの平均をとります (デフォルト)。

FIRST は、期間内のデータの最初の値をとります。

MID は、期間内のデータの中央の値をとります。その期間の観測値の数が偶数なら、CONVERT は中央の一つ前の値を使います。

LAST は、期間内のデータの最後の値をとります。

SUM は、期間内のデータの総和をとります。低い期種から高い期種へ変換する場合は、変換比で割ります (年から四半期への変換なら 4 で割る)。

これらのオプションは 1 っだけ使います。

INTERPOL/NOINTERP は、高い期種への変換の場合は線形補完します (既定オプションは補間でなく、観測値の複製です)。INTERPOL はピーク値の場所を決めるいくつかのオプションの一つとともに用いられます。

例:

```
FREQ A ;
CONVERT(AVERAGE) UNEMP ;
CONVERT(SUM) SALES ;
CONVERT(LAST) PCLOSE=PRICE ;
```

UNEMP と SALES を四半期データ, PRICE を月次データとします. この例では, 四半期データである UNEMP については平均をとり, SALES については総和によりそれぞれ年次データに変換します. 一方, 月次データである PRICE は最後の期である 12 月のデータを年次データとします.

```
FREQ A; SMPL 70,72; READ X; 10 20 40; FREQ Q;
CONVERT DX=X; CONVERT(SUM) SX=X; CONVERT(INTER, LAST) IX=X;
```

結果は次のようになります.

	DX	SX	IX
1970:1	10.00000	2.50000	2.50000
1970:2	10.00000	2.50000	5.00000
1970:3	10.00000	2.50000	7.50000
1970:4	10.00000	2.50000	10.00000
1971:1	20.00000	5.00000	12.50000
1971:2	20.00000	5.00000	15.00000
1971:3	20.00000	5.00000	17.50000
1971:4	20.00000	5.00000	20.00000
1972:1	40.00000	10.00000	25.00000
1972:2	40.00000	10.00000	30.00000
1972:3	40.00000	10.00000	35.00000
1972:4	40.00000	10.00000	40.00000

アウトプット:

CONVERT は何も出力しません. 変換したデータを領域に保存するだけです.